

科目名	美術 I	学科・学年・学級	商業科・1 学年（選択）
		単位数	2 単位（週 2 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 高校美術（日本文教出版） [副教材] なし	

1 学習目標

生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指し、美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねる学習を行います。

2 学習方法

美術 I では、表現領域として「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の 3 つの分野、鑑賞領域として「美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞」「生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞」の 2 つの分野の計 5 分野をバランスよく学習します。美術 I の表現や鑑賞の学習を通して、創造的な芸術に関する基礎的な資質・能力を育成します。

3 学習評価

(1) 評価の観点・趣旨・方法

観 点	趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能	「造形的な見方・考え方」について理解を深め、意図に応じて活用し、創造的な表現及び鑑賞活動を行っているか。	・成果物（作品やレポート） ・リフレクションレポート
思考・判断・表現	自ら主題を生成し、造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、社会の中での美術の働きなどを総合して発想や構想を練り、見方や感じ方を深めているか。	・制作過程（アイデアスケッチや制作記録） ・リフレクションレポート
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わろうとする主体的な態度が表現及び鑑賞活動全体を通して継続し、成果物に反映されているか。	・課題に取り組む姿勢 ・リフレクションレポート

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、3 つの評価の観点を踏まえ、「成果物と制作過程」、「課題に取り組む姿勢」、「リフレクションレポート」などを総合して行います。学年末の評価は、1 年間の評価を総合して行います。

4 学習のポイント

- ・道具の準備、課題の提出期限など授業の基本的なルールを守りましょう。
- ・表現や鑑賞の活動を通して、自己理解と他者理解を深めましょう。
- ・日常生活でも「造形的な見方・考え方」を意識し、授業の学びを生活全般に生かせるように心がけましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	・オリエンテーション ・配置と構図で語る	・美術 I の学習の見通しを持ち、学びの意味や広がりについて考えます。 ・配置や構図、質感などの効果について学びます。
5	・気づきに気づく ・デザインのプロセス	・デザインとは何か、デザインの役割や効果について学びます。 ・デザインの基本的な進め方について学びます。
6	・マークのデザイン ・タイポグラフィー	・デザインにおける視認性や可読性、統一感について学びます。 ・文字を用いた表現効果について学びます。
7	・継承と創造 ・怪異の生き物たち	・日本美術の独自の美意識や表現方法について学びます。 ・人類が目に見えないものをどう表現してきたかについて学びます。
8	・アニメーションの仕組み	・時間軸のあるアニメーションの特徴的な表現について学びます。
9	・色彩の仕組み ・感覚と表現	・色彩の効果について学びます。 ・言葉にできない感覚に色や形を与える表現について学びます。
10	・絵の具を知ろう	・アクリル絵の具の使用法、可能性について学びます。
11	・内面を見つめて	・自己の内面を外化する表現について学びます。
12	・写真と時間	・カメラの特性、光や構図など、写真の基礎について学びます。
1	・立体表現の広がり ・サイエンス×アート	・立体作品の材料や技法、質感、重心などよさや見方について学びます。 ・科学と芸術の関りについて学びます。
2	・組み合わせてつくる	・素材の特性を生かした造形について学びます。
3	・アートと世界	・生活と美術のつながりに目を向け、1年間の学びを振り返ります。

